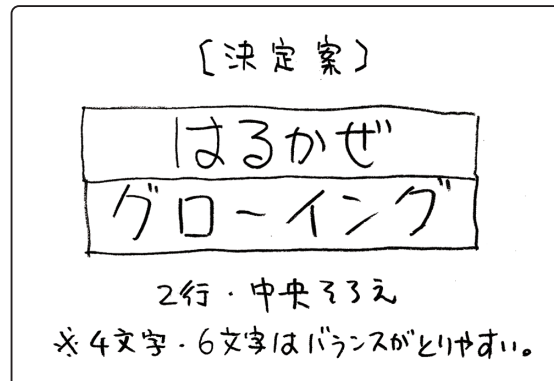


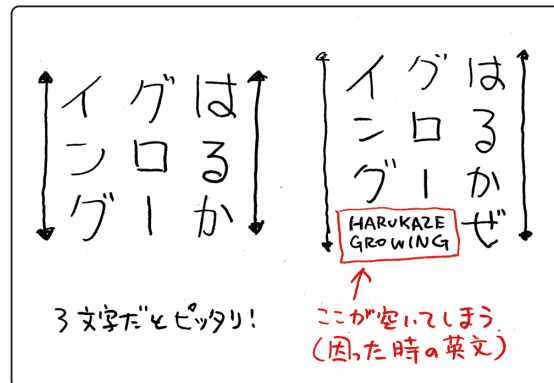
Part 2 ラフをまとめる

たくさん書いたスケッチから、作品コンセプトやテーマに近いものを選んで、最終的な完成形をイメージしつつラフを起こします。前項で把握した作品のイメージやコンセプトをよく理解して、その反映を心がけることが大切です。

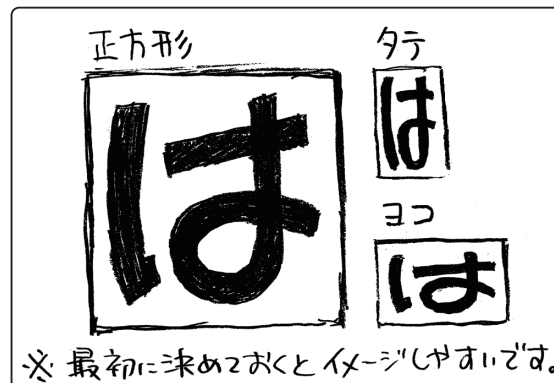
● 2-1 中央でバランスの取れるタイトルは作りやすいです



● 2-2 何かに似てる!とかそういうことを言わないように



● 2-3 1行の文字数が多い場合はタテ、少ないとヨコ

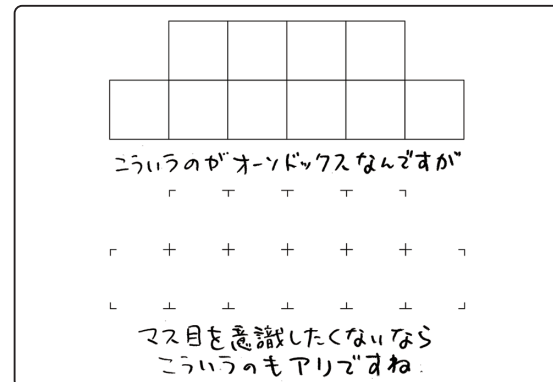


決まった配置パターンに合わせて、改めて文字を書きます。前項でさまざまなパターンを試しましたが、「はるかぜ」はたった4文字なので改行の必要はなく、「グローイング」というカタカナの文字列も途中で改行しにくいため、ここでは「横2行」を選んでみました。

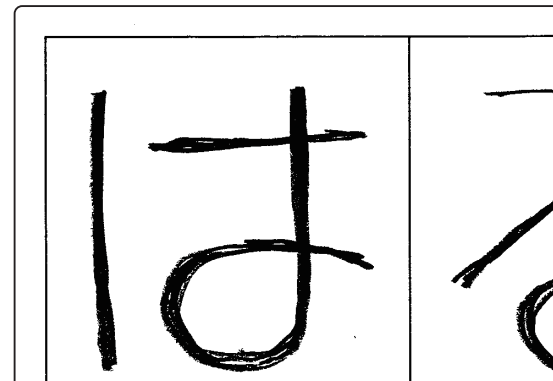
こういった“切りやすさ”は文字数に大きく影響されます。もしタイトルが「はるかグローイング」だったら、はるか／グロー／イングのように、3・3・3で収めても良さそうです。まず単語の境目で切り、次に文字数が等分になるように切るのが基本です。しかし複数の言葉の組み合わせでひとつの単語になっているものや、長音などの記号（約物）がふくまれている場合など例外もたくさんあるので要注意です。『ご注文はうさぎですか?』だと、2列目の文字数が1文字足りないの、ここに英字を入れてバランスを取っています。

ひとつひとつの文字について縦横の比率を意識しましょう。今回の「はるかぜグローイング」はオーソドックスな文字列なので、仕上がりが正方形になるように等倍角（縦1：横1）で作っていきましょう。どこに置いてもマッチしやすく、もっともスタンダードなつくりです。

● 2-4 ちなみに僕は最近あまりグリッドを使わないです



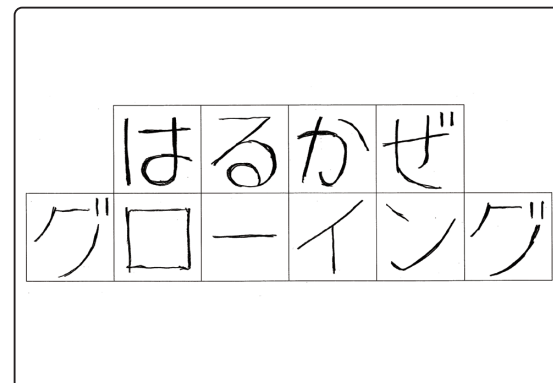
● 2-5 ただ、クリアな線を書く必要は無いです



● 2-6 注意する理由は後になってよくわかります



● 2-7 まずは基本形ということで



次に、方眼紙のように文字と同じ数の正方形のグリッドを描きます。後で消せるように鉛筆で描くのが基本ですが、いつでも使えるようコンピューターで作っておくのも便利です。これも基本として中揃え（センター合わせ）にしていますが、「かぜ」のイメージから右上がりのロゴにする可能性を考えて、右揃えのグリッドにしても良いかもしれません。グリッドを使わない方法もちろんあるのですが、バランスを取るのが難しいので今回はグリッドを使用します。

それぞれのグリッドの中に文字を書きこんでいきます。前項でたくさん書いたスケッチから、作品のイメージやコンセプトに合ったものを選んで書きましょう。書きこんだ線は後ほどスキャンして使用し、後々のベースになります。意識して書くようにしましょう。

書きこんだ線は後で太らせる、細らせるなどの加工をしていくため、あまりにも文字同士が近づきすぎたり、小さすぎたりしないように気を付けましょう。加工しても別の文字にくっついてしまわないだけのスペースを確保しておく必要があります。例えば濁点などに要注意。

このような感じです。今回はあとから太らせるやり方なので線を細く書いていますが、最初から輪郭をトレースするやり方の場合、この段階で完成形に近いシルエットになっている必要があります。輪郭をトレースするやり方については誌面の都合上、こちらで説明ができないのですが、ラフの段階でほぼ完成に近い形を作るという点で、難度の高いものと捉えてください。